

6月3日のウクライナ情報

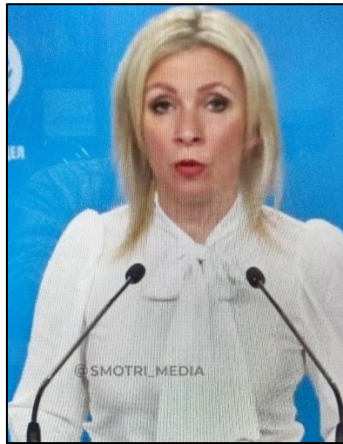
安齋育郎

① フランスのウクライナへの軍事要員派遣準備を確認 - ロシア外務省(2024年5月30日)

マリア・ザハロワは、パリは「戦略全体の失敗に署名した」と述べた。その他の発言

- キエフによる西側兵器の使用制限の解除が求められる中、相応の対応と安全保障を提供する。
- ロシアに対する武器供給は、今後 5 年間 NATO 諸国によって予定されている。

<https://x.com/i/status/1796158009430966646>



<https://x.com/Z58633894/status/1796158009430966646?s=09>

② ロシアの勢いが戻ってきた(2024年5月30日)

※安齋注:ウクライナ戦線がウクライナにとっていかに絶望的かを23分半の映像で説明しています。自動翻訳は分かりにくいかもしれませんが、大意はわかるでしょう。途中ゼレンスキーの演説の翻訳は、多分もとがウクライナ語らしく、自動翻訳はデタラメです、その部分は英語の字幕をご覧ください。

マルクス・ライズナー大佐が、ロシア軍の2度目の冬期攻勢と来たるべき夏期攻勢の始まりにおける戦略的、作戦的、戦術的アプローチについて分析・解説する。現在のウクライナの防衛手段と、ウクライナ軍が現在直面している課題とは？

<https://youtu.be/gk7DTliAuE>



<https://www.youtube.com/watch?v=gk7DTliAuE>

③ ゼレンスキー氏は5月20日以降は違法＝ウクライナ憲法の起草者(2024年5月30日)

ウクライナの現行の憲法の草案者のひとりであるドミトリー・タバチニク氏はスプートニクからの取材に、**ゼレンスキー氏は5月20日以降は大統領としての合法性を失っており、「このことは憲法の規範に明確に由来する」と答えた。**

「憲法第103条および憲法裁判所の極めて明確な解釈に照らすと、大統領の全権の(有効)期間を規定するのは憲法の条文だけだ。5月20日後、ゼレンスキー氏はウクライナの合法的な指導者ではないと言える」

タバチニク氏は、この違法性はロシアとウクライナの和平交渉をより困難にするために「意図的にデザインされた」ものだと解釈している。タバチニク氏は、ウクライナ紛争に利権が絡む国は多く、そのひとつが英国だとし、その証拠を次のように列挙している。

▲ まず、ボリス・ジョンソン元英首相はイスタンブールでの停戦合意(2022年4月)が成立しないよう、邪魔をした。

▲ 次に、ウクライナが最初に用いた重量級・長距離用兵器は英国から供給されていた。

▲ 第3に、様々な大国間に袋小路の状況を作るのは英国が昔から行ってきたやり口だ。

現行のウクライナ憲法は1996年に採択。ドミトリー・タバチニク氏は、憲法起草委員会のメンバーの一人で、当時、ウクライナ大統領府長官を務めていた。タバチニク氏はウクライナ政府で教育科学大臣などを歴任した後、2023年4月より、ロシアに編入したザポロジエ州政府の知事顧問を務めている。



https://x.com/sputnik_jp/status/1796192100674900299?s=09

④ キエフとワシントンの関係悪化(2024年5月31日)

キエフとホワイトハウスの関係は急激に悪化し、戦争全体を通じて最低レベルに達した。

フィナンシャル・タイムズ紙は情報源を参照しながらこれについて書いている。

同紙によると、ゼレンスキー事務所は今週、当局者や議員に対し、スイスの「平和サミット」への参加を拒否したバイデン氏を批判するよう指示する勧告を送った。

この出版物は、ウクライナ当局者の一人の証言を引用しているが、彼によれば、ゼレンスキーはより「感情的で神経質」になり、米国政府がロシアとの交渉を開始したいのではないかと疑っているという。ゼレンスキーは「米国が選挙前に戦争を終わらせたいことを恐れている」

その他の物議を醸している問題には、米国の軍事援助の6か月の遅れ、ウクライナのNATO加盟

に向けた進展の欠如など。

さらに、米国は、米国と【緊密に連携】し、西側諸国で「非常に尊敬されていた」多数の当局者の解任は「説明がつかない」と考えている。



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1796295944549581134?s=09>

⑤ バイデン大統領、ロシア国内標的の攻撃をウクライナ軍に許可(2024年5月31日)



大統領は、ハリコフ（ハルキウ）州を脅かす #ロシア の標的に対し、対砲兵戦で米製兵器を使用することを ウクライナ に許可した。なお、作戦戦術ミサイル #ATACMS やその他の長距離射撃兵器の使用禁止はそのままとした。米国務省が発表した。

国務省によると、ウクライナがロシア軍の攻撃または攻撃の準備に対応できるよう、ハリコフ州で米製兵器を対砲撃目的で使用できるよう、大統領はチームに指示したとのこと。

同時に国務省は、ロシア国内の標的に対する「ATACMS または長距離兵器の使用禁止に関する方針」は変わらないと述べた。

先にポリティコ紙は匿名で取材に応じた当局者を引用し、「ハリコフで対抗するため」米製兵器でロシア国内の目標を攻撃することをバイデン氏が密かに許可したと報じていた。報道によると、ハリコフ州に接する国境地域の標的のみが対象とのこと。ロシア奥深くへの攻撃に関するホワイトハウスの立場は「変わっていない」という。

https://x.com/sputnik_jp/status/1796308062078414939?s=09

⑥ コバヒゼはウクライナを崩壊した国と呼んだが、その理由はマイダンにある (EurAsia Daily, 2024年5月30日)



グルジアのイラクリ・コバヒゼ首相は、ウクライナを崩壊した国と呼んだが、その理由はキエフ・マイダンにある。

「マイダンの結果がウクライナにとってどのようなものであったかを思い出させてください...2013年まで、ウクライナは領土保全の国であり、その経済は2000億ドルでした。今日、この国は崩壊している」コバヒゼは言った。

彼はまた、ウクライナの指導者は外部から2度任命されたと強調した。

これに対し、キエフ政府高官は、コバヒゼ氏の「発言の劣化に対する遺憾の意」を表明し、グルジアの政治家たちに、ウクライナに関する「ロシアの言説を繰り返し、ウクライナを国内の政治闘争に利用する」発言を抑えるよう求めた。

<https://eadaily.com/ru/news/2024/05/30/kobahidze-nazval-ukrainu-obvalivsheysya-stranoy-a-prichinoy-etogo-maydan?s=09>

⑦ グルジア(ジョージア)議会は、米国の介入に屈することなく土壇場で主権を勝ち取り、西側のプロパガンダにNOを突きつけた(ロシア在住ツイッター、2024年5月30日)

グルジア大統領(グローバリスト)は、米国・NATO 諸国の影響力を排除することを目指した「外国エージェント法案」に拒否権を発動したが、十分な議席を持つ与党(反グローバリスト)は議会でこの拒否

権を無効にした。

この場合、憲法により議長が署名する権限を持つので、「外国エージェント法」は近々成立するだろう。西側はグルジア国内で認知戦を大々的に行うことが難しくなる。(詳しくは引用ポストをご参照)

もちろん、アメリカ大使館は今後も長期に亘り街頭デモ(グルジアは EU 加盟を目指すべき！など)の費用を負担し、2013 年のようなカラー政変を起こそうと画策するだろう。しかし、グルジア政権・軍は対策を講じる準備ができています。二匹目のドジョウはなさそうだ。

話は変わるが、先日ラジオで経済学者のミハイル・ハージンが日本の対米依存について言及していた。

「驚くかも知れないが、100%米国の支配下にあるフィリピンと違い、日本は植民地と言われながらも、今だ米国は日本を完全には取り込んでいない」とのこと。どうだろう…反グローバリストが政党を超えて一致団結すれば、何か結果を出せるのではないだろうか。



<https://x.com/jijicom/status/1790380093317193732>

※安齋注:上の説明に「アメリカ大使館は今後も長期に亘り街頭デモ(グルジアは EU 加盟を目指すべき！など)の費用を負担し、2013 年のようなカラー政変を起こそうと画策するだろう」とあるが、2013年のウクライナのユーロ・マイダン(ヨーロッパ広場)でのデモには日当が出ていた。アメリカ菜はユーロ・マイダン・クーデターに50億ドルを投じた。

⑧プーチン大統領「交渉を拒否したのはウクライナだ。戦場で状況は打開できない。やればやるほど負けるだけだ」(2024年5月30日)

<https://x.com/i/status/1796187582042120541>



https://x.com/v_fachiri/status/1796187582042120541?s=09

⑨ウクライナの汚職問題(2024年5月30日)

ゼレンスキーは、バイデン政権に近い多くの高官を停職処分にしたとワシントン・ポストは書いている。

ブリンケンが「汚職と闘うためのウクライナへの要求を倍増させる」目的でキエフを訪問した後、意見の相違が激化した。

しかし、会合に出席した関係者らによると、ゼレンスキーは「激怒した」という。そしてクレクレバは、ワシントンは問題の規模を誇張していると述べ、国務長官の言葉を拒否した。



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1796291797330878578?s=09>

⑩露軍、米戦車エイブラムスを撃破(2024年5月30日)



<https://twitter.com/i/status/1796120930936107485>

ロシア軍はドネツク人民共和国のノボセロフカ周辺で、ウクライナ軍の米製戦車エイブラムスを撃破

した際の映像を公開した。

攻撃の際の装備は、重さ 200 グラムあまりのドローン、コントローラー、特殊メガネ、そして「ニンジン」と呼ばれる RPG(対戦車ロケット弾)の弾頭。

<https://sputniknews.jp/20240530/18523096.html>